

農作物の生育状況、今後の見通しと対策（7月）

鳥取県農業気象協議会
（鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まとめ）
令和7年7月15日 現在

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
作物	水稲	・現時点、高温、小雨の影響は発現しておらず、全般的に生育は順調。 ・分げつ旺盛で莖数が確保されており、随時中干しが進行中である。 ・山間地等で田植えの早かった、4月中旬田植えのコシヒカリが穂ばらみとなっており、5月中旬植えのコシヒカリや5月上旬植えの星空舞が幼穂形成期となっている。 ・現時点で目立った病害虫発生は見られないが、浅水管理が困難な中部の一部ほ場で、ジャンボタニシの食害が多い傾向である。	・適正な穂肥施用を行い、適期防除を行う。 ・中干しが不十分なほ場では、間断かんがいの乾田期間を長くし、田面を徐々に硬くしていく。 ・高温、少雨によって田面が急激に乾燥すると、ひび割れが大きくなって漏水を助長する場合があるため、ほ場をよく観察して中干し終了と再入水の時期を判断する。
	大豆	・高温、小雨の影響（水分ストレス等）の有無はこれから判明。 ・6月上～中旬までに播種したほ場は全般的に生育順調。 ・6月下旬の降雨直前に播種したほ場は、一部で発芽不良や湿害が発生している。 ・6月下旬の梅雨明け以降、降雨のない状況が続いており、播種後の干ばつによって一部発芽不良も見られる。 ・6月中旬までの播種で生育が順調なほ場では、中耕・培土が進みつつある。	・排水対策に努め、湿害回避を図る。 ・雑草の多いほ場では、ほ場乾燥後に中耕培土や除草剤散布を行う。除草剤散布に当たっては、使用方法、使用時期を確認し、適正使用を行う。
果樹	ナシ	・7月13日の果実発育調査結果は次のとおり。 「二十世紀」：6園の横径平均が53.8mmであり、前年比95％(3日遅い)・平年比94％(4日遅い) 「新甘泉」：3園の横径平均が60.9mmであり、前年比91％(6日遅い)・平年比94％(4日遅い) ・梅雨明け以降に高温、少雨が続いたため、果実肥大がやや鈍った。 また、ハダニの好条件になっており発生が見られる。	・夏枝管理を行う。 ・小雨が続く場合、かん水は、次のとおり行う。 赤土園では連続晴天7日、黒ボク園では連続晴天10日を目安にかん水を行う。 施設のある園では積極的にかん水する。 特に、幼木や若木にはこまめにかん水を行い、土壌乾燥防止のため、株本を山草や稲わらなどでマルチする。 ・ハダニ類の発生状況を確認し、密度が高くないうちに防除する。 ・ハウス二十世紀は、7月24(木)に検査標準査定会を開催予定である(昨年は7月25日開催)。
	カキ	・7月13日の果実発育調査結果は次のとおり。 (現時点、小雨の影響の有無は不明。) 「巨峰」：横径が25.4mmであり、前年比104％、平年比92％ 「西条」：3園の長径平均が33.6mmであり、前年比97％(2日遅い)・平年比99％(1日遅い) 「富有」：3園の長径平均が48.3mmであり、前年比99％(1日遅い)・平年比104％(2日早い) ・仕上げ摘果作業が行われている。	・仕上げ摘果が終わっていない園では早めに終わらせて大玉生産を目指す。 ・日焼け防止のため、横から下向きの葉に隠れる果実を残す。 ・小雨が続く場合、かん水は、次のとおり行う 赤土園では連続晴天7日、黒ボク園では連続晴天10日を目安にかん水を行う。 施設のある園では積極的にかん水する。 特に、幼木や若木にはこまめにかん水を行い、土壌乾燥防止のため、株本を山草や稲わらなどでマルチする。 ・草刈りを行って園内の通気を良くし、病気の発生や果実の汚れを防ぐ。
	ブドウ	・7月11日の園芸試験場砂丘地農業研究センターの果実発育調査結果は次のとおり。 「巨峰」：横径が25.4mmであり、前年比104％、平年比92％ 「ピオーネ」：横径が26.7mmであり、前年比104％、平年比91％ ・「デラウェア」の出荷が7月7日(前年7月4日)から出荷が始まっている。 ・「巨峰」「ピオーネ」が着色期であるが、生育遅れと高温により着色の進みが芳しくない園がある。	・着色促進、日焼け・縮果症の発生を抑えるため、ハウス内の温度を下げるよう努める。 ・無加温ハウス巨峰・ピオーネ検査標準査定会が7月25日(金)に開催予定である。(昨年は7月26日開催)
	すいか	・高温による「うるみ果」の発生が見られる。(トンネル栽培) ・出荷は終盤となっている。階級は大玉傾向で3L～特、秀優率は9割程度と高い。 ・倉吉では7月上旬から抑制すいかの定植が開始。	・高温によるうるみ果の発生が懸念されるため、遮光剤の散布を呼び掛ける。
	白ねぎ	【春ねぎ】 ・育苗中で順次定植が進んでいる。定植後の生育は、現時点順調。 ・育苗では、高温による発芽不良や過乾燥による欠株が一部で発生し、蒔き直し対応もある。 【夏ねぎ】 ・6月中旬から出荷が始まっている。7月下旬にかけて出荷量が増加する見込み。 ・梅雨明けが早まり、高温、小雨となったことで、例年より生育停滞が早まっている様子。 また、一部で白絹病、アザミウマの発生が多くなっている。 【秋冬ねぎ】 ・概ね順調に生育しているが、高温、小雨により白絹病、軟腐病、ハモグリバエ、アザミウマの発生が多くなっている。	・梅雨明けが早まったことで土寄せ作業が出来ず、夏ねぎ後半～秋冬ねぎの収穫遅れが心配される。 ・ハモグリバエ、アザミウマの防除を徹底する。 ・高温が続く中、降雨があると白絹病、軟腐病の発生が心配されるため、病害防除も徹底する。 ・短時間豪雨や台風時期に備え、ほ場に滞水しないように明渠等の排水対策を行っておく。 ・高温時の無理な土寄せ、追肥を避ける。
	ブロッコリー	・早いところで6月下旬頃から秋冬作型の播種が始まっている。	・好天時には育苗中乾きやすいため、かん水の頻度を増やすよう呼びかける。
	ミニトマト	・高温により、花粉の出が悪くなっている。 ・定植は、5月中旬から開始されており、ピークは例年通り6月下旬。 ・目立った病害虫の被害は見られない。	・結実を促進するため、トマトーンによるホルモン処理への切り替えを助言。 ・半促成作ではトマトキバガの発生が見られるため、予防防除を呼びかける。
	トマト(夏秋)	・現時点、高温、小雨の影響は見られず、生育は順調。 ・昨年より4日早い7/4から選果場が稼働している。 ・気温が高く生育は3日程度早まっている。出荷は3Lと2L中心の大玉傾向となっている。 ・一部ほ場では、アザミウマ類が確認されているが、その他の病害の発生は確認されていない。	・今後も高温、小雨が予想されるため、少量多かん水の徹底をはかる。 ・適正な草勢確保のための管理(かん水、追肥、摘果、葉面散布、摘果など)を行う。 ・ゲリラ豪雨に備え、施設周りの排水対策を徹底する。
	ながいも	・ねばりっこ、長芋とも生育は概ね平年並み。ただし、高温によりやや生育停滞気味の園場もみられる。 ・炭疽病の発生はほとんど見られないが、コガ・ヨトウ類やダニ類の発生がやや多い。	・芋の肥大期であるため、地上部の繁茂状況を見ながらこまめな追肥を心がける。 ・小雨(乾燥)が続くとダニ等の害虫発生、降雨があれば炭疽病の発生・蔓延が心配されるため、病害虫防除を徹底する。
アスパラガス		・露地の雨除けでは、6/末頃までにほぼ立茎が完了し、成葉化している。 ・高温により、生育はやや遅れ気味となっているほか、萌芽の減少や品質の低下がみられる。 ・ハウスでは高温対策として、遮光資材の設置を行っているところ。 ・園場によってはハダニ・アザミウマの発生が見られる。	・ハウスの高温対策として、遮光資材の設置や通風を良くするように助言する。 ・乾燥が続くため、適宜灌水を行うよう呼びかける。 ・病害虫の防除を徹底する。
花き	シンテッポウユリ	・高温、小雨の影響は、現時点では見られない。 【盆作型】 ＜東部地区＞ ・蕾が見え始めている。早いところで7/20頃から収穫開始となる見込みで平年より1週間程度早い。 ＜中部地区＞ ・草丈は50～80cm。1輪など輪数の少ないものから蕾が見え始めている。 【抑制ハウス作型】 ＜中部地区のみ＞ ・定植は7/4～開始。殆どの生産者が定植前に、5日～1週間苗冷蔵を行った。	【盆作型】 ＜地区共通＞ ・葉枯病などの病害虫防除に努める。 ・十分な灌水、葉水による葉焼け対策を実施する。 【抑制ハウス作型】 ・晴天が続く場合は寒冷紗を2重掛けとし、ハウス内が高温とならないようにする。
	りんどう	・高温、小雨の影響は、現時点では見られない。 ・極早生系統の収穫が6月末で終了し、現在早生系統の収穫中。	・葉枯病などの害虫防除に努める。 ・土壌水分を見ながら、灌水を実施する。
	ストック	・高温、小雨の影響は、現時点では見られない。 ＜中部地区＞ ・7/25からの播種に向けてほ場準備中。 ＜西部地区(中山間)＞ ・7/15頃から播種が開始。	＜共通＞ ・播種前に予め寒冷紗を2重掛けとし、ハウス内が高温とならないようにする。
	アスター	・高温、小雨の影響は、現時点では見られない。 ・6/21から播種が開始し(平年並み)、出芽および初期成育は概ね順調。 ・一部ほ場で発芽が悪い品種(7/4播種小輪系2品種、6/24播種大輪系1品種)があり、苗の移植と追い播きで対応。 ・播種は一部の生産者を除き7月中旬頃で終了予定(1名は7月末から8月播種予定)。	・7月中旬以降の播種は、ハウス内をできるだけ涼しくするため寒冷紗を2重(場合によっては3重)掛けとし、乾きすぎないようにこまめな灌水を心がける。 ・高温乾燥により害虫の発生が多いことが予測されることから、防除の徹底を図る。特に電照するとチョウ目害虫が寄ってきやすいため、点灯前に必ず防除を実施する。
飼料	イタリアンライグラス	【全県下】 ・2番草の収穫が終了。 ・2番草の収量はやや多い。	
	飼料用トウモロコシ	【全県下】 ・高温、小雨の影響はほとんどなく、飼料用トウモロコシの生育は概ね良好である。 ・4月～5月播種のほ場では、順調に出穂が確認されている。	【全県下】 ・4月播種のほ場では、7月下旬から収穫が開始され、8月からは県内全域で収穫が行われる予定。 ・7月下旬収穫する一部の地域では、2期作のトウモロコシの準備が始まる予定である。

【農作業安全について】
6月に動力運搬車と農舎の壁に挟まれる事故が発生。(後進による収納)
動力運搬車の使用では、進行方向に障害物が無いか、速度が出すぎていないか等に注意すること。